

年金収入の足しにしたいと思い、 毎月分配型の投資信託の購入を 考えている。どうだろうか？



こんなトークで
こたえよう



退職後の年金収入の補充に
毎月分配型投資信託の分配金
を考えるお客様は多いです。
ですが、分配金を前提とした
運用には注意が必要です。

運用を効果的に行うには、
長期投資、分散投資、複利運
用、ドルコスト平均法の4つ
の活用が重要です。退職金な
どの運用では、このうち長期
投資、分散投資、複利運用の
3つを活用すべきですが、こ
こで分配金を重視すると、こ
の3つを活用できなくなり、
資産を危険にさらす可能性が
あります。

また、分配金は永続的に今
の金額が出るわけではなく、
減額や停止も十分ありえます。
分配金ありきで退職後のラ
イフプランを考えるのはリス
クが大きいと言えます。仮に
毎月分配型投資信託を購入す
るにしても、分配金収入を前

提にしたり、頼ることのない
よつな老後資金計画を立てる
ことが大切です。

解説

毎月の支出を支えるのに十分な
給与収入があった時と異なり、年
金収入だけで生計費を賄うのは一
般的に困難だ。退職後の年金収入
を毎月分配型投資信託の分配金で
補充したいというのは、多くのお
客様の切実なニーズだ。

お客様のニーズに応えることは
何より大切だが、その前に資産運
用の基本について改めて考えてか
ら、お客様への対応を検討しよう。
意識すべきなのは次の2点。

① 効率的かつ効果的に運用するた
めに重要な4つのポイントは、長
期投資、分散投資、複利運用、ド
ルコスト平均法の活用。

② 実際の金融資産への投資で、投
資家が定期的にある程度決まった
成果を受け取るためには、円償も
しくは外債への投資しかない。

①の4つのポイントに関して、
まず、退職金などを活用した資産
運用ではドルコスト平均法の利用
は現実的ではない。できることは
投資タイミングの分散をすること
で、高値掴みをするリスクを減ら
す程度だ。逆を言えば、それ以外
はすべて使うことが可能だ。

最終的には取り崩しながらの資
産運用とはなるが、老後に向けて
長期投資をすることで、短期的な
値動きに振り回されず安定した運
用をすることが期待できる。

ポートフォリオを使った分散投
資も、値動きの違う、異なった資
産を組み合わせることで、ポート
フォリオのパフォーマンスを安定
させるのに効果が期待できる。

また、複利運用は、投資の効果
を最大限発揮するためには欠かせ
ない投資方法だ。

長期投資の
メリットを活かす
ことができない

これに対して、毎月分配型投資